

宇宙電波懇談会事務局（名大理）発行

◎ 運営委員会報告（1980年10月9日、東京天文台にて）

- (1) 大型宇宙電波望遠鏡連絡協議会の現状、今後のあり方について議論された。

将来、野辺山宇宙電波観測所共同利用委員会（仮称）に移行し、機能していくべき本協議会の重要性が強調され、宇宙電波天文学者の総意が確実に反映されるような協議会メンバーの選出が強く望まれることが確認された。

- (2) 野辺山観測所PDF（post doctoral fellowship）制度の設置について議論された。既存のPDF制度等の資料が検討された。

- (3) 宇電懇シンポジウムの準備のための議論がされた。(a)「野辺山宇宙電波観測所の体制と運営」シンポジウムを1980年12月18、19、20日に野辺山“愛兵寮”において開催する。世話人、田原および東京天文台。

(b)「銀河の内域」シンポジウム（世話人、京大赤外グループ）の開催は資金の面で苦しく、本年は見送ることが報告された。

◎ ワーキング・グループ報告（1980年10月9日、東京天文台にて）

野辺山宇宙電波望遠鏡についてワーキング・グループが開かれた。

- (1) 45m鏡、5素子干渉計について全般的な進ちょく状況、建物、受信機、測距角、VLBI、計算機、時計等について建設の進ちょく状況、現状、問題点についての報告があった。
- (2) 今後の建設工事等のスケジュールが報告された。
- (3) 試験観測の方法、スケジュール等について報告があり、議論が行われた。
- (4) 野辺山観測所の運営体制について議論が行われた。

◎ 運営委員会報告(1980年11月20日、東京天文台にて)

(1) PDF制度について前回にひきつづき議論が行われた。

(2) 野辺山シンポジウムのプログラム案について議論がされた。くわしくは下のプログラム案を参照のこと。

◎ 宇電懇シンポジウム 開催のお知らせ

「野辺山宇宙電波観測所の体制と運営」

期 日 12月18日(木) 14:00 ~ 20日(土) 13:00 まで

会 場 愛岳寮 TEL 02679-8-2022

	9:00	12:00	1:00	2:00	3:00	5:00	7:00
18日(木)					I	II	夕食 懇親会
19日(金)	III		昼食	観測所見学	III	夕食	体制等について話しあい
20日(土)	IV						

プログラム (案)

18日 0. あいさつ ----- 田中 (10分)

I. 45m・干渉計の近況と完成後の性能

(1) 45m望遠鏡 ----- 海部 (20)

(2) 干 渉 計 ----- 石黒 (15)

(3) VLBI ----- 平林 (15)

(4) 計 算 機 ----- 近田 (15)

II > 試験観測の体制

(1) 試験観測では何をすべきか ----- 森本 (30)

(2) 観測所内外との協力体制 ----- (15×n)

19日 III 共同利用としての野辺山観測所

(1) 共同利用施設としての位置づけ ----- 小沼 (基研: 40)
交渉中

田原 (40)

森本 (30)

藤本 (30)

コメント (15×n)

(2) 既存の施設から何を学ぶか

野辺山太陽電波観測所 ————— 甲斐 (15)

岡山天体物理観測所 ————— 清水 (15)

木曽観測所 ————— 石田 (15)

コメント (15×n)

(3) 共同研究体制

受信器開発 ————— 稲谷 (20)

小川 (15)

ソフト開発 ————— 近田 (15)

祖父江 (15)

研究者の交流 ————— (20)

共同利用施設に望む ————— (15×n)

コメント (15×n)

20日 IV 運営組織 (コメント+議論)

◎ 大型宇宙電波望遠鏡連絡協議会報告 (1980年11月20日、東京天文台にて)

(1) 田中氏より野辺山観測所の7月末—11月中頃までの進行状況について報告された。

(2) 共同利用体制等について田原氏より次の点について報告があった。

② 協同利用体制

① 他大学協同利用の実情

◎ P D F の制度の検討

④ 議論：現連絡協議会の共同利用運営委員会への移行準備、プログラム

委員会について、その他人事など。

(3) 次回連絡協議会を1981年1月23日に開くことが決定された。

◎ 野辺山大型宇宙電波望遠鏡建設ニュース

(1) 45 m ϕ 望遠鏡：主鏡に日除けをつけ終り野辺山高原にアンテナの勇姿を
みせてきた。鏡面パネルはまだついていないが、パネル調整機構取付を終り
それらの調整にはいっており12月中に終る予定である。現在主鏡の周辺部
のアルミパネルの搬入が開始されている。副鏡は12月中には吊り込み開始
予定である。

(2) 干渉計：10 m ϕ 望遠鏡の組み立ては5台とも完了した。現在は駆動系、
放射系の調整中である。移動台車も運び込まれ来春にはアンテナの移動テス
トを行う予定である。

(3) 建物関係：45 m ϕ 、干渉計両観測棟は完成した。現在本館、付属仮眠宿
舎を建築中である。

◎ お 知 ら せ

(1) 新 入 会 員

前 原 英 夫 東京天文台・木曾観測所・助手

喜屋武 昌 一 立教大・理・物理・研究生

小 坂 義 裕 富士通宇宙システム開発部

井 手 健 一 //

菊 地 重 行 //

河 田 俊 弘 //

白 田 仁 志 富士通宇宙システム開発部

秋 田 圭 介 名大・理・物理A研・技官

宇電懇の会員は1980年12月10日現在202名になりました。

(2) 会費納入状況

前号、前々号のニュースでもお知らせしましたとおり、今年度より会費が1,000円/yrになりました。12月10日現在会員の60%の方々が納入を済ませています。未納の方は郵便振替口座『名古屋37745 宇宙懇事務局』あて納入して下さい。

◎ 研究室の近況(名古屋大学理学部A研: A = Astronomy)※

1.5 mφ 短ミリ波望遠鏡によるCOスペクトル観測(115GHz)の準備が進められている。太陽などによるポインティングチェックが年内に開始される見込。今年度導入した高分散分光計(BW=40MHz, 1728 ch)の計算機つなぎこみが完了し、ハードウェアの虫取り作業で連日大忙。ビームスイッチ装置等の製作が同時に進行している。

16素子35GHz太陽干渉計は、ルーチン観測態勢に入っており、続々とバーストのデータが得られている。X線・r線との比較検討が興味深い。

銀河磁場、HIガスと星形式などの研究が、M31など近傍の銀河について進行中。因みにM31の詳細な光学観測、電波観測が世界的に進行中。星形成、星間物質の研究の舞台が銀河系からアンドロメダにうつるのは時間の問題か。

※ 今後、このように各研究室の近況を掲載していきたいと思います。原稿を事務局にお寄せ下さい。(400字以内)